千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第44週（10/31-11/6）の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	44週	43週	42週	41週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	27	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	10/31-11/6 44週	10/24-10/30 43週	10/17-10/23 42週	10/10-10/16 41週	千葉県 10/24-10/30 43週
小児科	RSウイルス感染症		8 0.44	9 0.50	12 0.67	10 0.56	112 0.83
	咽頭結膜熱		2 0.11	0 0.00	0 0.00	1 0.06	23 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	33 1.83	30 1.67	21 1.17	22 1.22	342 2.53
	感染性胃腸炎	○	124 6.89	116 6.44	89 4.94	75 4.17	639 4.73
	水痘		7 0.39	4 0.22	5 0.28	0 0.00	49 0.36
	手足口病		26 1.44	41 2.28	32 1.78	27 1.50	286 2.12
	伝染性紅斑		0 0.00	2 0.11	2 0.11	2 0.11	15 0.11
	突発性発しん		10 0.56	9 0.50	15 0.83	4 0.22	55 0.41
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	ヘルパンギーナ		3 0.17	4 0.22	7 0.39	7 0.39	40 0.30
	流行性耳下腺炎		3 0.17	6 0.33	8 0.44	2 0.11	79 0.59
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		6 0.22	6 0.21	9 0.32	1 0.04	96 0.45
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	2 0.40	3 0.60	1 0.20	17 0.50
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	3 3.00	2 2.00	2 2.00	16 1.78
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（8件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出等	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
				－	－	－	－

・第44週は、　結核3件（205）、腸管出血性大腸菌感染症1件（19）、梅毒4件（25）の報告があった。

※ （）内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

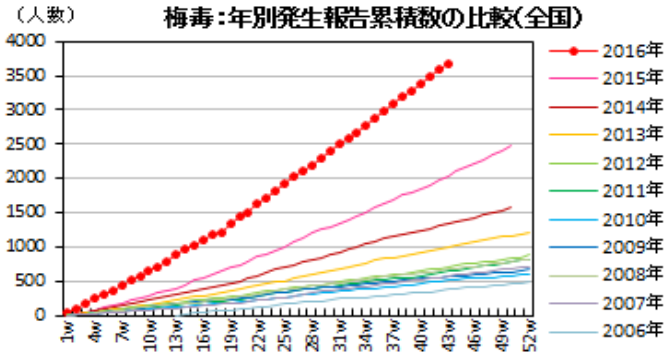
定点当たり報告数　第44週のコメント

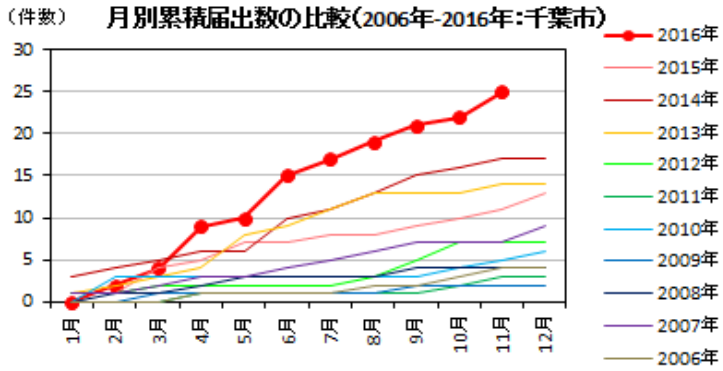
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し1.83となった。過去10年の同時期と比べると多め。
＜感染性胃腸炎＞前週より増加し6.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜梅毒＞

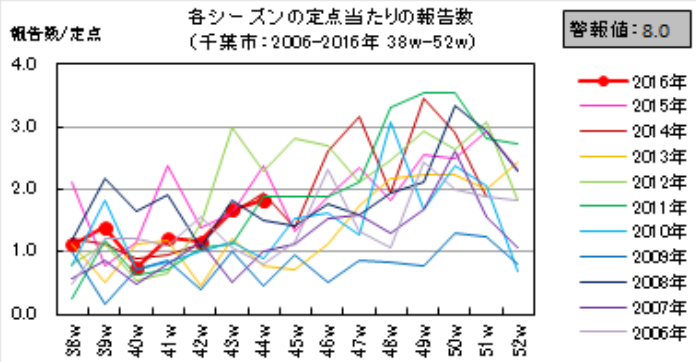
全国レベルの第43週の累積届出数は3684件で、過去9年で最も多かった2015年を大きく上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第7位となっています。千葉市では第44週に4件の発生届があり累計が25件となり、過去10年で最多であった2014年を上回り最多となっています。性別では男性が48.0%（12名）、女性が52.0%（13名）と女性が多くなっており、年齢階級別では20歳代（32.0%：8名）、50歳代（20.0%：5名）、10歳代（16.0%：4名）の順に多くなっています。また、病型は早期顕症梅毒Ⅰ期（28.0%：7名）、早期顕症梅毒Ⅱ期（36.0%：9名）、晩期顕症梅毒（4.0%：1名）、無症状病原体保有者（32.0%：8名）で、感染経路は性的接触（84.0%：21名）、輸血（4.0%：1名）、不明（12.0%：3名）で、性的接触の内訳は異性間（66.7%：14名）、同性間（4.8%：1名）、不明（28.6%：6名）となっています。

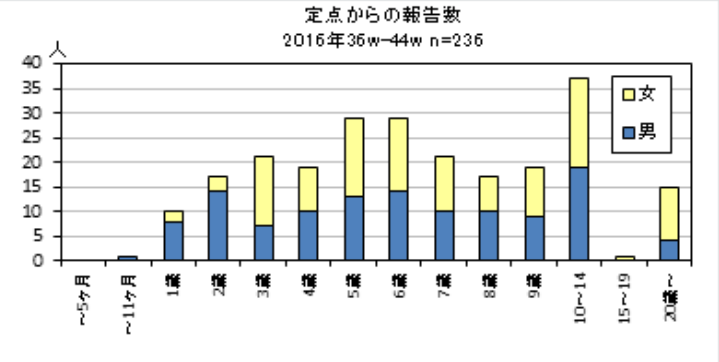


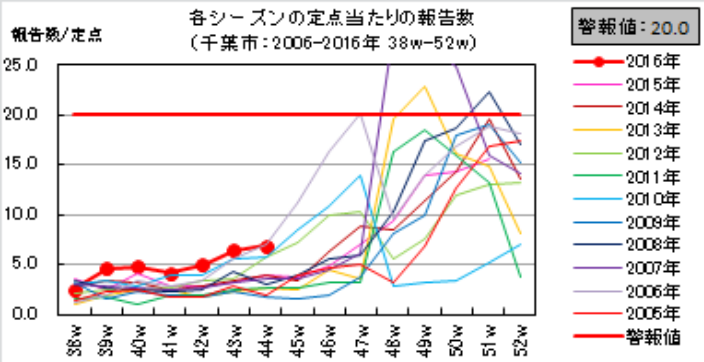
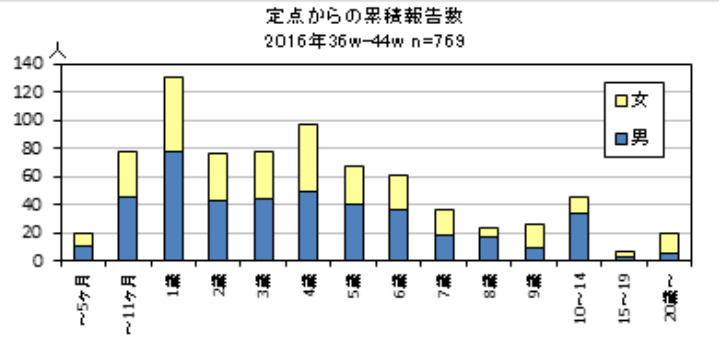


＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第43週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第44週は前週より増加し1.83となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区（4.5/定点）で最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第44週までの累積報告数（n=236）によると、性別では男性が50.4%（119名）、女性が49.6%（117名）で、年齢階級別では10歳代前半が最も多く、一年代当たりでは5歳及び6歳（共に12.2%：29名）、3歳及び7歳（共に8.9%：21名）の順に多くなっています。





＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第43週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、広島県、島根県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第44週は、前週より増加し6.89となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向によると、今後は増加していく傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区（10.5/定点）で最多となっており、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。若葉区は昨年から継続して高い水準のまま推移しています。今シーズンである2016年第36週から第44週までの累積報告数（n=769）によると、性別では男性が56.6%（435名）、女性が43.4%（334名）で、年齢階級別では1歳（17.0%：131名）、4歳（12.6%：93名）、6～11か月及び3歳（共に10.1%：78名）の順に多くなっています。